

ゼミナールとは

1

ゼミナールへのエントリー手続き

2

## 各ゼミナールの概要

ゼミナール名	担当教員名	ページ
福祉政策ゼミ	清水 正美	3
ソーシャルワークゼミ	小川 智子	4
社会福祉ゼミ	橋本 理子	5
社会問題ゼミ	堀 千鶴子	6
福祉心理ゼミ	岩田 泉	7
福祉文化ゼミ	井上 敏昭	8
精神保健福祉ゼミ	森山 拓也	9
高齢者福祉ゼミ	林 和歌子	10
観察福祉ゼミ	篠崎 良勝	11
福祉専門職の実践力	山本 満智子	12
要介護高齢者福祉ゼミ	伊藤 将子	13
子ども心理（発達）ゼミ	広瀬 美和	14
児童福祉ゼミ	所 貞之	15
保育・児童福祉学ゼミ	倉田 新	16
子ども心理（臨床）ゼミ	佐野 智子	17
子ども心理（教育）ゼミ	大内 善広	18
現代社会ゼミ	竹内 秀一	19

## ゼミナールとは

### 〈ゼミナールの位置づけ〉

ゼミナールは、福祉総合学部のカリキュラム形成教育に位置づけられます。中でも**問題解決能力を育てる**ための大事な科目です。どのゼミナールを選ぶかによって、今後2年間の**大学生活や卒業後のキャリアも大きく左右**されます。他人の意見に流されたり安易な気持ちで申請したりせず、スケジュールに沿って先生方と相談し、ゼミナールを選ぶようにしてください。

ゼミナールⅠ・Ⅱは両方とも**必修科目**です。

### 〈ゼミナールで習得する能力〉

ゼミナールでは、将来福祉現場や企業などの就職先で問題を見出し、解決できる能力の習得を目指します。

#### ① 問題の分析を行うための研究方法の習得

学生一人ひとりの興味、関心に基づき、文献調査やインターネットなどで情報を調べ、個人、グループでエビデンス（根拠）に基づいた問題を提示できることを目指します。

#### ② 問題の詳細を理解するための調査方法の習得

提示した問題の詳細を理解するために、フィールド調査、インタビュー調査、統計調査などを活用し、問題の詳細を理解するための方法論を活用できるようになることを目指します。

#### ③ 問題解決ための方法の習得

調査を通じて得られたデータを分析し、そこから結果をまとめ、問題解決のための方策について考えられるようになることを目指します。そしてそれを文章としてまとめていく力も合わせて養成します。

#### ④ プレゼンテーション能力の習得

①～③で得られたことを、学園祭でのゼミ研究成果発表会などで発表するための、企画力、研究したことを他者に伝える力を養成します。

### 〈ゼミナールの成果〉

大学のゼミナールにふさわしい内容の研究を行い、その成果を、**学園祭のゼミ研究成果発表**、**ゼミ論文**にまとめて提出し、ゼミナール担当教員の審査に合格しなければ卒業することは出来ません。

ゼミ論文は**1人8000字程度**とし、個別研究、グループ研究のどちらかの形式をゼミナールごとに選択します。

〈ゼミナール履修の条件〉

- ・ **3年次進級条件**（基礎ゼミと1年次必修科目を全て取得し、かつ総取得単位数が36単位以上）を満たしていないと、ゼミナールⅠを履修することはできません。また、3年次終了時にゼミナールⅠの単位を取得していなければ、4年次にゼミナールⅡを履修することは出来ません。

### ゼミナールへのエントリー手続き

項 目	期 間
① ゼミナール説明会	12月13日（木）
② アドバイザーとの相談／ ゼミナール教員との相談期間	12月17日（月）～12月21日（金） 1月7日（月）～1月11日（金） 12月17（月）～1月25日（金）
③ エントリーシート提出期間 （提出場所：学部事務）	1月24日（木）～1月25日（金）

・上記の各手順（項目）での注意点は以下の通りです。

- ① 「ゼミナール説明会」では、それぞれのゼミでは「何を研究するのか」「どのような方法で研究するのか」「どのような人に向いているのか」などをしっかり把握するとともに、今後の申請手続きの手順と方法を確認してください。
- ② 「アドバイザー教員との相談／ゼミナール担当教員との相談期間」では、まず自分の**アドバイザーの先生と相談**しながら、自分が所属したいと考えるゼミの候補を必ず**複数**挙げてください。アドバイザーの先生から了承を得たら**エントリーシートに捺印**してもらいます。次に、候補に挙げた**ゼミを担当する先生を訪ねて**そのゼミについて詳しく説明を受けてください（何時訪ねればよいか、どのように連絡を取ればよいかは各ページに記してあります）。説明を受けたらその先生方からも**エントリーシートに必ず捺印**してもらうこと。事前にゼミの先生のところに相談に行かなかった場合やその先生の捺印が無い場合は、そのゼミへの申請は受け付けません。
- ③ エントリーシートには、**第1～第4希望**のゼミのそれぞれについて、**志望動機と研究したいテーマを具体的に記入**してください。選抜において考慮の対象となります。各ゼミナールの内容を深く理解したうえで、なぜこのゼミを選んだのか、ゼミに配属された際にはどのような研究をしたいのかきちんと記述してください。また**提出期間は厳守**すること。提出期限を過ぎた場合は、希望に沿った配属が大変難しくなります。
- ④ ゼミナールへの配属は、学生から出された**エントリーシートに記載された第1希望～第4希望に基づいて決定**されます。原則として第1希望を優先しますが、特定のゼミナールに多くの学生がエントリーした場合は、第2～第4希望のゼミナールに配属される場合があります。第2～第4希望についてエントリーを行わなかった場合は、その権利を放棄したとみなして大学側の判断で配属を決定します。**配属結果は、掲示にて発表**しますので、掲示板をよく確認すること。

教員氏名：清水 正美

ゼミタイトル：『社会福祉政策』・『社会福祉制度』の成り立ちと発展

このゼミを履修するための条件

社会福祉政策や社会福祉制度について関心があり、より深く理解と考察を加えたい学生

このゼミのねらい・ゼミ生に求められる研究姿勢

- ・ このゼミでは『社会福祉政策』・『社会福祉制度』の成立過程やその後の発展について理解し、考察していくことをメインテーマに、各ゼミ生が興味・関心のあるサブテーマを持ち寄り、調査・発表・ディスカッションを行う。
- ・ ゼミ生同士で企画立案・作業等をすることもあるため、積極的に参加する姿勢で臨むこと。

ゼミの進め方

#### I. 初年度（3年次）

- ・ 自己紹介とゼミメンバーのゼミ選択に当たっての個人ゼミテーマの発表
- ・ 個人ゼミ論作成に向けてテーマの選定と発表
- ・ グループ活動のテーマの選定と関連テキストの輪読など

#### II. 卒業年度（4年次）

- ・ 具体的な個人ゼミ論の作成について、テーマに関係する関連文献をリストアップし整理し発表等
- ・ 個人ゼミ論完成に向けた取り組みと要旨発表、完成
- ・ 学園祭や卒業発表用のゼミ（グループ）のテーマの設定と発表準備、発表

#### III. 研究成果をまとめる形式（ゼミ論の形式）・各年次のゼミの評価について

- ・ 原則、A4用紙 30枚～50枚程度のゼミ論完成を必須とする。
- ・ 3年次の評価については、おおむね教員が指定したテーマや作業などについての発表やその内容についての評価とする。
- ・ 4年次の評価については、各自のゼミ論文完成への発表やその成果についての評価とする。

#### IV. ゼミ履修上のルール・学生への要望・注意

- ・ 全ゼミ生が調査や発表・ディスカッションを通じてテーマを深めていくため、全回出席を前提とする。やむを得ず欠席や遅刻をする場合には必ず事前連絡をすること。これらのことが出来ない場合には評価対象とせず、単位取得が不可能となる。
- ・ 出席に当たっても、ゼミ運営に積極的にかかわることが当然である。

#### V. 教科書・参考書

ゼミ冒頭でゼミ生の興味関心等を共有したのちに指定する。

相談日・相談の方法

- ・ オフィスアワー時間帯にて相談とするが、実習巡回等でやむなく研究室を留守とするときは、随時研究室前のホワイトボードにてスケジュールなどを掲示する。
- ・ 必ず事前にメール等でアポイントメントを取っていただきたい。
- ・ 大学メールアドレスにて質疑応答できる事もあるが、必ず学籍と氏名を明らかにすること。

教員氏名：小川 智子

ゼミタイトル：ソーシャルワークゼミ－ソーシャルワーカーの支援を多角的に理解する－

このゼミを履修するための条件：ソーシャルワーカーの働きに関心を持てること

#### このゼミのねらい・ゼミ生に求められる研究姿勢

ソーシャルワーカーの支援は、児童、障がい者、高齢者、ボランティア支援など幅広い分野で行われており、個別支援から地域の支援まで幅広く展開されている。本ゼミでは、最初にソーシャルワーカーの支援方法について共通する視点を研究する。その後、ゼミ生の関心の高い分野に関するソーシャルワーカーの支援方法を研究し、ソーシャルワーカーの役割と専門性について明らかにすることを目的とする。文献講読、フィールドワークから問題意識を高め、ソーシャルワーカーの支援について研究テーマを設定し、ゼミ論文にまとめていく。自分の持っている問題意識を大切に、それを深めていく姿勢が求められる。

#### ゼミの進め方

##### I. 初年度（3年次）

- ・ソーシャルワーカーの働きを学ぶことができる文献を基本とし、ソーシャルワーカーの支援展開の視点を学ぶ。役割分担を行い、ゼミの中で発表を行い、共有する。夏休みにゼミ合宿に行き福祉現場での体験学習を行う。
- ・学生一人ひとりが関心のあるソーシャルワーカーの業務、専門性を調べ、発表を行い、グループごとに取り組む研究テーマを設定する。
- ・研究テーマに沿った、文献収集と整理を通して4年次のフィールドワークの準備を行う。

##### II. 卒業年度（4年次）

- ・引き続き、文献収集と整理を通して、フィールドワークの準備を行う。
- ・フィールドワークを行い、実践への参加、専門家から話を聞きソーシャルワーカーの働きを学ぶ。
- ・フィールドワークで得たデータを分析、文献で得た知見を含め考察し、ゼミ論文にまとめていく。

##### III. 研究成果をまとめる形式（ゼミ論の形式）・各年次のゼミの評価について

- ・文献、フィールドワークを通して学んだことを、ゼミ成果発表、ゼミ論文としてまとめていく。
- ・評価は、授業内での発表、各学期末にゼミで学んだことをレポートにまとめる（30%）、ゼミナール成果発表の取り組み（30%）、ゼミ論文作成（40%）で評価を行い、60%以上で単位取得となる。

##### IV. ゼミ履修上のルール・学生への要望・注意

- ・ゼミに必ず出席すること、出席を重視するため、遅刻、無断欠席は認めない。
- ・ソーシャルワーカーの支援についてメンバー同士の相互作用を重視し、多角的に考えていくため、自らが課題を見つけて取り組むことのできる人。

##### V. 教科書・参考書

学生の関心に合わせて設定した今までの参考文献は

- ・NPO法人 豊島子どもWAKUWAKUネットワーク編（2016）『子ども食堂をつくろう！一人がつながる地域の居場所づくり』明石書店
- ・長崎新聞社累犯障害者問題取材班（2013）『居場所を探して 累犯障害者たち』長崎新聞社

##### 相談日・相談の方法

原則木曜日4限目と昼休み、金曜日昼休みが相談時間となる。相談希望者は事前にメールを送付し、時間を確認すること。

教員氏名： 橋本 理子

ゼミタイトル： 社会福祉ゼミ —社会福祉を地域・歴史の視点で考える—

#### このゼミを履修するための条件

社会福祉や社会福祉を取り巻く状況に関心を持っていること。

自らが設定したテーマについて、ゼミ論文としてまとめることができること。

#### このゼミのねらい・ゼミ生に求められる研究姿勢

社会福祉研究は、幅広い研究テーマを設定することが可能である。本ゼミナールでは、その広範な社会福祉研究の概要を確認したうえで、各自が関心を持つテーマを設定しゼミ論文を作成する。社会福祉が人々の生活課題解決を目指し、発展・展開してきたと考えた時、社会福祉の対象となる生活課題は地域の中で発生し、地域の中で解決されるということができよう。また、福祉の対象となる生活課題はその時代によって注目のされ方は異なるものの歴史的に継続するものも多い。本ゼミナールでは、各自のテーマを地域・歴史の観点から検討することを目指す。

社会福祉に関心をもち、設定したテーマについて自ら調査する積極的な姿勢がもとめられる。

#### ゼミの進め方

##### I. 初年度（3年次）

- ① 指定文献（『社会福祉研究のフロンティア』を予定）を購読し、社会福祉研究についての知識を得る。（担当となった部分について、レジュメを作成、ゼミ内で発表し、意見交換を行う）
- ② ゼミ論文のテーマを決定する。論文作成方法の基本的知識を習得する。
- ③ ゼミ論文作成に向けて、資料の収集・整理（資料・文献リストの作成）・アンケート・インタビューの準備等を行う。

##### II. 卒業年度（4年次）

- ① ゼミ論文執筆。
- ② ゼミ論文作成に向けて資料の精査、追加調査、分析を行う。
- ③ ゼミ内での報告会、大学祭、学部で行うゼミ発表会等にて報告を行う。

##### III. 研究成果をまとめる形式（ゼミ論の形式）・各年次のゼミの評価について

各自のテーマについて、所定の文字数以上のゼミ論文を、各自が作成する。

3年次は、課題及び意見交換への取り組み（50%）レポート（50%）にて評価する。

4年次は、中間期末の発表や取り組み（30%）ゼミ論文（70%）にて評価する。

##### IV. ゼミ履修上のルール・学生への要望・注意

- ① 原則としてゼミに毎回出席すること。
- ② もれなく課題に取り組むこと。

##### V. 教科書・参考書

岩崎晋也、岩間信之、原田正樹（2014）『社会福祉研究のフロンティア』有斐閣、2400円

その他、適宜授業内で紹介する。

#### 相談日・相談の方法

事前にメールにて、相談日・時間について相談のご連絡をください。

教員氏名： 堀 千鶴子

ゼミタイトル：社会問題ゼミ ーひとり親世帯の生活問題ー

このゼミを履修するための条件

真摯に学びたいという姿勢や意欲が必要

このゼミのねらい・ゼミ生に求められる研究姿勢

本ゼミでは、社会問題の中でも、「ひとり親世帯の生活問題」について理解を深め、福祉的な立場から問題解決に向けての研究を行う。「ひとり親世帯の生活問題」は、「子どもの生活問題」にもつながる重要な社会問題である。そこで、文献講読、関係機関・施設見学などから問題意識を高め、個々に具体的な研究テーマを設定し、最終的にはゼミ論文にまとめる。よって、研究テーマに取り組むための積極的・真摯な姿勢が求められる。

ゼミの進め方

I. 初年度（3年次）

I. 初年度（3年次）

- ① 基礎的な文献の講読、発表から基礎知識を学ぶ。
- ② 自らの問題意識を高め、研究テーマを設定する。
- ③ ゼミ論文作成に向けて「論文」とは何か、作成方法について理解する。

II. 卒業年度（4年次）

- ① 前年度の成果をふまえ、ゼミ論文の骨子を作成・発表する。
- ② ゼミ論文作成に向けて、個人あるいはグループで必要な調査(インタビュー、アンケートなど)を実施し、まとめる。

III. 研究成果をまとめる形式（ゼミ論の形式）・各年次のゼミの評価について

研究成果の形式：論文（8000字以上）を作成する。

ゼミの評価：3年次 授業への参加状況（課題の作成・提出、発表状況）を総合的に評価。

：4年次 授業への参加状況にゼミ論文の評価を加味する。

IV. ゼミ履修上のルール・学生への要望・注意

テーマに対し、積極的、真摯に学びたいという姿勢が必要である。

ゼミには、必ず出席のこと。やむを得ない場合の欠席は、必ず連絡すること。

V. 教科書・参考書

授業内にて、指示する。

相談日・相談の方法

事前にメールにて相談日の予約をとってください。

教員氏名： 岩田 泉

ゼミタイトル：福祉心理ゼミ ～臨床心理から、こころの健康を探る

#### このゼミを履修するための条件

- ・臨床心理・人格心理・社会心理学などの福祉「心理系科目」に興味があること。
- ・設定したテーマについて、質問紙やインタビューによるデータ収集を行ない、それをもとにゼミレポート、ゼミ論文にまとめることを前提とする。

#### このゼミのねらい・ゼミ生に求められる研究姿勢

・本ゼミでは、福祉心理（人間心理）について調査・研究することを目的とする。具体的には、生活上のメンタルヘルスに関する問題や適応上のさまざまな問題を取り上げ、質問紙やインタビュー調査によるデータ収集を行ない、それをもとに、ゼミレポート（3年）、ゼミ論文（4年）にまとめることをめざす。これまで扱った研究テーマでは、「ソーシャルサポート」「自己意識」「いじめ」「無気力」「ストレス」「恋愛観」「アイデンティティ」「学習動機」「ネット依存」「スポーツ臨床心理」などがキーワードである。

#### ゼミの進め方

##### I. 初年度（3年次）⇒研究の方法・手順を学ぶ。

・まず研究テーマについて、これまでの研究（先行研究）を調べ、その問題意識を話し合う。次に、テーマについて質問紙やインタビュー調査によるデータ収集が可能かどうかを検討する。さらに、質問紙等を作成し、対象を選択して実施する。集めたデータを統計的に処理し、その結果を考察してレポートにまとめていく。興味が一致する場合は、グループで研究を進める。

##### II. 卒業年度（4年次）⇒ゼミ論文を完成させる。

・基本的には初年度と同じ研究のプロセスをくり返し、最終的にゼミ論文にまとめることを目指す。また、できるだけ発表する機会（ゼミ・演習研究成果発表会など）を設けたい。テーマやグルーピングについては変更する場合もある。

#### III. 研究成果をまとめる形式（ゼミ論の形式）・各年次のゼミの評価について

- ・図表を入れてA4レポート用紙（20枚程度、ワープロ打ち）にまとめその成果を評価する（80%）。  
加えてゼミレポート・論文作成への関与度、意欲など（20%）を評価する。

#### IV. ゼミ履修上のルール・学生への要望・注意

・調査や統計処理の方法、論文作成の手順を具体的に指導する中で、特に研究の方法を身に着けることをめざす。調査研究の方法を理解することは、将来、専門職や企業人として活動する場合に必要なスキルである。また、考えを述べるにあたって「データに基づいて論理を組み立てる」など科学的思考を練習していく。すでに本に書かれていることも、もう一度再調査・再検討することで実際に検証してみることが重視する。したがって、調査やインタビューなどの方法に積極的に「チャレンジする」姿勢を求めたい。また、互いに共同して研究する意識も求めたい。

#### V. 教科書・参考書 『心理測定尺度集 I～V』堀洋道監修 サイエンス社

『SPSSでやさしく学ぶアンケート処理』加藤千恵子ほか 東京書籍

相談日・相談の方法：水曜、木曜の昼休み、直接、研究室で。



<p>教員氏名： 井上 敏昭</p>
<p>ゼミタイトル：福祉文化ゼミ 人々の営みから「幸せ」を考える</p>
<p>このゼミを履修するための条件</p> <p>他者やその文化を理解しようとする意欲・真摯さを求める。</p>
<p>このゼミのねらい・ゼミ生に求められる研究姿勢</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・このゼミでは、履修生がおのおの福祉や文化に関する研究テーマを設定し、そのテーマに関して、フィールドワーク（インタビュー、参与観察などの実地調査）や文献調査を行い、研究成果をまとめる。</li> <li>・テーマは、国際福祉分野のように文化の違いを越えるものを中心に、他者との相互理解を含む内容であり、広義の「福祉」すなわち人間の「幸せ」に関するものなら自由に設定してかまわない。希望者には、地域における障害者の自立支援や障害児の支援に関わるプロジェクトを紹介することも可能。</li> <li>・国家試験の受験を希望する履修生には、ゼミの研究や就職活動との両立を図り、合格に向けて勉強ができるよう指導する。</li> </ul>
<p>ゼミの進め方</p> <p>I. 初年度（3年次）</p> <p>前期：研究を行う上での基本姿勢や、フィールドワークや文献研究を行うための技術を学ぶ。それと並行して各自で研究テーマを設定し、調査計画を立て、調査項目を作成する。</p> <p>後期：調査・研究活動を各自開始する。その結果を毎週ゼミナールに持ち帰って発表し、全員でアイデアを出し検討を加えていく。</p>
<p>II. 卒業年度（4年次）</p> <p>前期：引き続き研究活動を行い、卒業論文作成にむけて考察を深めていく。必要に応じて、補充調査などを行い、卒業論文の完成を目指す。</p> <p>後期：年度末に国家試験合格を志す学生については、受験勉強と両立できるように、研究・論文執筆計画を調整する。</p>
<p>III. 研究成果をまとめる形式（ゼミ論の形式）・各年次のゼミの評価について</p> <p>調査の成果およびその分析をまとめた報告書を作成し、ゼミ論文として提出する。完成した論文はフィードバックとして、話者や協力してくれた人々にも送付する。各年次の評価は、学年末レポート（3年次）／卒業論文（4年次）への評価（60%）＋調査活動への評価（40%）で判断する。</p>
<p>IV. ゼミ履修上のルール・学生への要望・注意</p> <p>自主性を尊重する。</p> <p>フィールドワークを行う場合は、話者に貴重な時間を割いて協力してもらうのであるから、責任ある行動が求められる。文献研究を選択する学生を含め、無責任な行動をとる学生の履修・単位取得は認めない。</p> <p>履修生自身の興味関心や個性が反映された研究を期待する。</p>
<p>V. 教科書・参考書</p> <p>『エスノグラフィー入門 〈現場〉を質的調査する』 小田博志 春秋社 2010年</p> <p>『フィールドワーカーズ・ハンドブック』日本文化人類学会監修 世界思想社 2011年</p> <p>その他、履修生のテーマに沿って個別に指示する。</p>
<p>相談日・相談の方法</p> <p>研究室前に掲示してあるメールアドレスに学籍番号と氏名を記入したうえでメールを送信し、アポイントメントを取ったうえで研究室に来訪してください。</p>

教員氏名： 森山 拓也

ゼミタイトル：精神保健福祉ゼミ - 臨床ソーシャルワークの視点から

このゼミを履修するための条件

様々な現場でソーシャルワークを実践することへの興味関心

このゼミのねらい・ゼミ生に求められる研究姿勢

◎ゼミのねらい：

精神保健福祉士や社会福祉士の資格を取得して、それぞれの現場でソーシャルワークを実践するために、ソーシャルワーカーの営みや実践領域の歴史を研究する。

卒業年度には、自身の興味関心から研究テーマを設定してゼミ論文にまとめる。

◎ゼミ生に求められる研究姿勢：

仲間と共に学ぼうとする態度、意欲的な研究姿勢を求める。

ゼミの進め方

#### I. 初年度（3年次）

①指定文献の輪読から基礎的な知識を学ぶ。

②これまでの学び（ゼミ・実習・ボランティア等）を論議しながら、各自の問題意識を高める。

③ゼミ論文作成に向けた研究テーマを設定する。

④ゼミ論文作成に向けて、論文作成法を理解する。

#### II. 卒業年度（4年次）

前年度の成果を踏まえて、ゼミ論文作成に受けて個人・グループで必要な調査を実施し、ゼミ論文にまとめる。

#### III. 研究成果をまとめる形式（ゼミ論の形式）・各年次のゼミの評価について

各自のテーマについて、所定の文字数以上のゼミ論文を作成する。

3年次は、授業への参加状況（意見交換への取り組み・課題の作成・発表状況）を総合的に評価する。

4年次は、授業への参加状況とゼミ論文にて評価する。

#### IV. ゼミ履修上のルール・学生への要望・注意

①ゼミに毎回出席し、与えられた課題に取り組むこと。

②施設見学等ゼミ企画への積極的な参加。

#### V. 教科書・参考書

F.P. バイステック「ケースワークの原則 - 援助関係を形成する方法」誠信書房 2006

その他、適宜授業で紹介する。

相談日・相談の方法

メールで相談日のアポイントをとったうえ、研究室に来訪ください。

<p>教員氏名： 林 和歌子</p>
<p>ゼミタイトル： 高齢者福祉ゼミ ～老いを理解する～</p>
<p>このゼミを履修するための条件</p> <p>◎高齢者をもっと理解したいと思っている方、また将来、高齢者に関わる仕事を目指している方など</p>
<p>このゼミのねらい・ゼミ生に求められる研究姿勢</p> <p>◎ゼミのねらい： 「高齢期にある人は誰もが直面している『老い』と、さらにその先にある『死』を、本人たちはどのように受け止めているのか」「高齢期を体験したことのない私たちにとっては未知の世界である「老い」について、私たちは本当に理解しているだろうか」このような疑問を前提に、「老い」という時期に感じる気持ちの変化などへの理解を深めることを目的としている。特に「老い」の只中にある人々と関わる時に、周囲に求められることとは何か、身につけておく態度や考え方、そして社会ができることはなにか、高齢者本人の視点から考察する力を身につけたい。</p> <p>◎求められる研究姿勢： テーマに対して積極的、真剣に学びたいという意欲。仲間と協力する態度。</p>
<p>ゼミの進め方</p> <p>I. 初年度（3年次）</p> <p>① 文献・映像などから「老い」についての基礎知識を学ぶ。 ②「老い」について、当事者とその関係者からその実際を学ぶ。 ③自らの問題意識を高め、研究テーマを設定する。 ④ゼミ・卒業論文作成に向けて「論文」とは何か、作成方法について理解する。</p>
<p>II. 卒業年度（4年次）</p> <p>前年度の成果をふまえ、各自の研究テーマについて発表を行い、ゼミ・卒業論文を作成する。</p>
<p>III. 研究成果をまとめる形式（ゼミ論の形式）・各年次のゼミの評価について</p> <p>各自の研究テーマについて、ゼミ・卒業論文にまとめる。評価は、3年次はディスカッションの参加態度、合宿レポート及び研究準備等を総合的に評価する。4年次はゼミ論作成のプロセス（中間発表、論文発表）及び完成論文を総合的に評価する。</p>
<p>IV. ゼミ履修上のルール・学生への要望・注意</p> <p>①ゼミに必ず毎回出席し、ゼミメンバーと積極的にコミュニケーションをとり、与えられた課題に取り組むこと。</p> <p>③ 施設訪問(群馬県高崎市)を兼ねた合宿勉強会、ゼミ企画等への参加。</p>
<p>V. 教科書・参考書</p> <p>森幹郎「老いと死を考える」教文館、2007／森幹郎「老いとは何かー老いの再発見ー」ミネルヴァ書房、1989／平田 研也（加藤 久仁生 絵）「つみきのいえ」 白泉社、2008／岡野 雄一「ペコロスの母に会いに行く」西日本新聞社、2012／ 滝田洋二郎（監督）「おくりびと」セディックインターナショナル 2009</p>
<p>相談日・相談の方法</p> <p>基本的にオフィスアワー（火2/木3）で対応予定ですが、希望日を予めメール等で相談ください。</p>

教員氏名： 篠崎 良勝

ゼミタイトル： 観察福祉～福祉職の観察・確認という基盤的専門性について修得する～

このゼミを履修するための条件

支援や援助の「連続性」を‘観察’という領域から理解したい人向け。

このゼミのねらい・ゼミ生に求められる研究姿勢

介護福祉士、保育士、社会福祉士、精神保健福祉士という福祉専門職には【観察・確認】という専門職性があります。しかし、観察・確認とは具体的にはどのようなものなのかを追究する専門科目（教育）が存在していません。その結果、この観察・確認における着眼点や視点はあたかも個人的資質（センス）に委ねられているようにみられ、福祉専門職の観察・確認におけるベースライン（基準）としての専門職性がみえにくくなっています。

そこで、福祉専門職が行う観察・確認の専門職性を構成要素の側面から解明し、構造的に整理する研究を行います。ゼミ生には、本テーマに関心を持ち、意欲的に取り組む姿勢が求められます。

ゼミの進め方

#### I. 初年度（3年次）

- ・福祉職の専門職性である観察とはどのようなものなのかを文献を使って明らかにしていきます。
- ・観察を磨き上げるための個人ワーク・グループワークを行います。

#### II. 卒業年度（4年次）

#### II. 卒業年度（4年次）

ゼミ論文もしくは卒業論文のテーマは、各自が興味関心のあるもので行います。テーマは自由ですので、観察にこだわる必要はありません。

#### III. 研究成果をまとめる形式（ゼミ論の形式）・各年次のゼミの評価について

- ・ゼミ論・卒業論文の形式：文献研究・実践・調査等から、A4で10枚以上
- ・評価：3年次は参加・取り組み40%、レポート60%、4年次は参加40% ゼミ論（卒業論文）60%

#### IV. ゼミ履修上のルール・学生への要望・注意

以下の3点を守ること。

- ①ゼミには毎回必ず出席することのできる学生。
- ②復興支援・医療・福祉職員との交流（福井県福井市もしくは青森県八戸市）を兼ねた合宿勉強会（2泊3日）への参加（必須）。山本ゼミと合同のゼミ合宿になる予定です。
- ③人間関係の構築に苦手意識はあっても構いませんが、自ら壁を作ることはしないで欲しいです。

#### V. 教科書・参考書

適宜、授業で紹介します。

相談日・相談の方法

メールで相談日のアポイントをとったうえ、研究室に来訪してください。アポイントのない相談は受けつけませんので注意してください。

教員氏名： 山本 満智子

ゼミタイトル：福祉専門職の実践力 ～自分の考えを創り出し行動化できる力を養う～

#### このゼミを履修するための条件

「読む・書く・聞く（聴く）・話す」ことに関心をもっていること。議論することに関心をもっていること。相手の立場になって考え行動し発言しようとする人。

#### このゼミのねらい・ゼミ生に求められる研究姿勢

何気なく送っている日常生活の中に研究材料はたくさんあることに気づいてほしいです。

- ・経験学習理論の手法を中心に進めていきます。自分が経験したことを省察し言語化していく中で批判的思考・問題解決型思考についてじっくりと取り組みます。
- ・授業スタイルは、基本的に個人ワーク、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどの演習が中心になるためタイムスケジュール（時間管理、自己管理）がとても大切になります。取り組む課題や疑問点があったときは、そのままにせず、研究室まで聞きに来るなどアクションをおこしてください。

#### ゼミの進め方

##### I. 初年度（3年次）

- ・文献購読によるグループワークやレポートの書き方など基本知識を学んでいきます。
- ・経験したことをマインドマップ、関連図を描くことで思考の整理をしていきます。
- ・次年度のゼミ論を踏まえ研究計画についてプレゼンテーションを行います。

##### II. 卒業年度（4年次）

- ・前年度の成果を踏まえゼミ論の作成をしていきます。
- ・適宜プレゼンテーションを実施します。

##### III. 研究成果をまとめる形式（ゼミ論の形式）・各年次のゼミの評価について

- ・ゼミ論文の作成をします。
- ・進捗状況を発表します。
- ・3年次は、参加状況・取り組み、レポート課題
- ・4年次は、参加状況・取り組み、ゼミ論文の評価

##### IV. ゼミ履修上のルール・学生への要望・注意

- ・実習、ボランティア、合宿、その他実体験を活用していきます。
- ・ゼミ合宿 2回予定  
夏は、篠崎ゼミと合同合宿になる予定です。復興支援・医療・福祉職員との交流
- ・福井県福井市若しくは青森県八戸市 冬は、新潟県南魚沼市1泊2日）への参加
- ・ボランティアに積極的に参加。その他 研修会に参加
- ・ゼミには毎回出席すること

##### V. 教科書・参考書

- ・適宜 授業内にて紹介します。

#### 相談日・相談の方法

事前に相談日のアポイントメントを取った上で研究室（A421）に来室してください。  
アポイントなしの場合は受け付けませんので注意をしてください。

<p>教員氏名： 伊藤 将子</p>
<p>ゼミタイトル：要介護高齢者福祉ゼミ —要介護高齢者のより良い生活を考える—</p>
<p>このゼミを履修するための条件： 要介護高齢者の福祉に関心のある学生を対象としています。所属のコースは問いません。特に卒業後の進路として、要介護高齢者の福祉に関わる職業に就きたいと真剣に考えている学生の履修を歓迎します。</p>
<p>このゼミのねらい・ゼミ生に求められる研究姿勢 本ゼミでは、「要介護高齢者の生活」についての理解を深め、より良い「要介護高齢者の生活」に向けての研究を行う。要介護高齢者や要介護高齢者の生活にかかわる人々の想いを大切にするという視点を持ちながら、より良い支援の方法を模索し検討することを目的とする。同時に、根拠をもって客観的に仮説を検証する方法論を身につけることも目的とする。 ボランティア活動や施設見学を通して問題意識を高め、具体的な研究テーマを設定してゼミ論文にまとめる。共同研究の形式をとるため、積極的・協働的な姿勢が求められる。</p>
<p>ゼミの進め方</p> <p>I. 初年度（3年次）</p> <p>① 各自で要介護高齢者に関する論文を探し、その内容をまとめた上で他のゼミ生に報告する。 この過程を通して、基本的な論文の読み方や研究方法を学んでいく。</p> <p>② ディスカッションを通してゼミ生全員で共通したテーマを設定し、共同研究を行う。</p> <p>③ ゼミ論文作成に向けて「論文」の作成方法について理解する。</p>
<p>II. 卒業年度（4年次）</p> <p>① 前年度の成果をふまえ、ゼミ論文の骨子を作成・発表する。</p> <p>② グループで必要な調査を実施し、グループで論文をまとめて発表する。</p>
<p>III. 研究成果をまとめる形式（ゼミ論の形式）・各年次のゼミの評価について 「要介護高齢者」に関することをテーマにゼミ論文を執筆する。 3年次は、課題及び共同研究への取り組み（50%）レポート（50%）にて評価する。 4年次は、中間期末の発表や共同研究への取り組み（30%）ゼミ論文・発表（70%）にて評価する。</p>
<p>IV. ゼミ履修上のルール・学生への要望・注意</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゼミに必ず出席すること。共同研究のため、遅刻や無断欠席は認めない。</li> <li>・グループでの学習・活動が多く、グループでのボランティア活動（年間：3回以上を必須）や施設見学を行うため、積極的に他者とかがわれる姿勢を求める。</li> <li>・課題が多くなるが、期限までに必ず提出すること。</li> </ul>
<p>V. 教科書・参考書</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・必要と思われる教科書・参考書については、授業内で知らせる。</li> </ul>
<p>相談日・相談の方法 オフィスアワーに直接、研究室を訪ねるか、メールにて予約をとってください。</p>

教員氏名：広瀬 美和

ゼミタイトル：子ども心理（発達）ゼミ—子どもとその周囲の育ちを探る

#### このゼミを履修するための条件

子どもや子どもを取り巻く人々の心理・行動の発達や保育・幼児教育に関心を持ち、フィールドでデータ収集することに積極的に取り組み、成果を実践現場で役立てる意欲のある学生の履修を期待する。

#### このゼミのねらい・ゼミ生に求められる研究姿勢

本ゼミでは、障がいの有無にかかわらず、乳幼児や保育者や保護者の認知発達や関係発達に注目し発達的变化を探索する。自身が子どもの支援の専門職についた際に参考にできるような、あるいは保育現場などに還元できる知見を得ることを目指す。

本ゼミでは、活動や議論への積極的な参加を求める。また、保育所や幼稚園、施設など人が生活する場での乳幼児の行動観察や保育者への質問や面接調査を中心に調査研究を行うため、フィールドでの適切な態度がとれること、調査研究のマナーや倫理への理解を確実に深めていくことを求める。また、乳幼児の発達や保育・養育者の発達に関心を持ち、日常的に情報収集を怠らないこと。

#### ゼミの進め方

##### I. 初年度（3年次）

保育学や心理学の文献講読を行う。各自が選んだ文献を解題して報告し、議論しながらそれぞれの研究テーマを考え、また基本的な研究方法について学ぶ。後半にはテーマの近い者同士で調査を行い、実践的に調査方法や分析方法、まとめ方を学び、次年度の研究に役立てる。

##### II. 卒業年度（4年次）

前年度に学んだ研究方法を用いて各自が設定した研究テーマで調査研究を行い、ゼミ論文を書く。中間報告、議論をしながら調査を進めていく。

##### III. 研究成果をまとめる形式（ゼミ論の形式）・各年次のゼミの評価について

各自で発達や保育についてのフィールドで収集した（観察・面接・質問紙・実験などにより）データを分析したゼミ論文（800文字×20枚程度）をまとめる。3年次は文献解題の発表内容と議論や共同調査研究への参加態度によって評価する。4年次は中間・最終発表の内容、ゼミ論文によって評価する。

##### IV. ゼミ履修上のルール・学生への要望・注意

1学期に1回程度文献や調査結果についての発表が課されるが、発表日の欠席は原則として認めない。最低限議論や活動に積極的に参加すること。

##### V. 教科書・参考書

適宜紹介するが、各自が関心に基づき積極的に情報収集する態度を求める。

#### 相談日・相談の方法

相談期間中のオフィスアワーに研究室を訪問するか、研究室に掲示のアドレスにメールでアポイントをとった上で相談を受ける。

教員氏名： 所 貞之

ゼミタイトル： 児童福祉ゼミ ～子どもの“Life”を支援する制度と方法～

#### このゼミを履修するための条件

- ・子どもの福祉に関心のある学生を対象としています。所属のコースは問いません。特に卒業後の進路として、子どもの福祉に関わる職業に就きたいと真剣に考えている学生の履修を歓迎します。また、「子ども家庭福祉論」の授業が履修済みであることを条件とします。

#### このゼミのねらい・ゼミ生に求められる研究姿勢

- ・児童虐待や少年犯罪、いじめやひきこもり、子どもの貧困等の子どもをめぐる社会問題が深刻化する今日、児童福祉は、子どもの福祉ニーズへの的確な対応が求められています。このゼミでは、地域社会で求められる児童福祉の施設やサービス、専門職・援助方法のあり方を、子どもの“Life（生命・生活・人生）”という視点からとらえ、子どもに関わるソーシャルワーカー、ケアワーカーとしての基本的素養を身につけることをねらいとします。とくに児童虐待の対応を中心に社会的養護及び地域での予防の視点からとらえていく学習、研究を資料収集・分析、施設見学、議論等を行うことにより展開します。

#### ゼミの進め方

##### I. 初年度（3年次）

- ・子どもや親子関係にかかわる問題関心を高めるために、児童自立支援施設、児童養護施設等の児童福祉施設や少年院といった矯正施設の見学、子どもの福祉問題に関するグループ・ディスカッションを予定しています。
- ・子どもの福祉、社会的養護に関する文献講読を行います。
- ・学生各自の問題意識を明らかにし、4年次に向けた（ゼミ論）研究テーマを設定します。
- ・就職対策としてワークシートを用いた自己分析を行います。

##### II. 卒業年度（4年次）

- ・ゼミ合宿を行います。子どもの福祉の関心を高めるために児童養護施設等でのボランティア活動やゼミ論の進捗状況の報告を行います。初年度を踏まえ、ゼミ論の執筆を進めます。
- ・2016年度は、“キラキラネーム”に着目して親の子育て意識を明らかにし、子育て支援のあり方を探求しました。2017年度は社会的養護のうち里親制度の課題と普及啓発に関する研究を、2018年度は“子どもの夢、子どもの頃の夢”をテーマに、5歳児に夢を描いてもらったり、現職保育士に子どもの頃の夢を描いてもらったりして研究を進めています。

##### III. 研究成果をまとめる形式（ゼミ論の形式）・各年次のゼミの評価について

- ・「子ども」に関することをテーマにゼミ論を執筆していきます。ここ数年は、共同研究のかたちをとっていますが、ゼミ員の意思を尊重し、個別の執筆となることもあります。
- ・ゼミ論の提出及び要旨発表の成果を評価対象としますが、3年次での文献講読での発表状況及びゼミ論テーマ発表状況、4年次でのゼミ論の中間報告の状況も評価の対象とします。

##### IV. ゼミ履修上のルール・学生への要望・注意

- ・グループでの学習・活動が多くなりますので、無断欠席は厳禁です。また施設見学やボランティア活動を行いますので積極的に他者とかわることもまたはその意欲を求めます。

##### V. 教科書・参考書

- ・必要と思われる教科書、参考書についてはその都度お知らせします。
- ・指示された文献以外でも関心分野の文献を自ら積極的に集め、読んでいくことを求めます。

#### 相談日・相談の方法

- ・オフィスアワーに直接、研究室を訪ねるか、メールにて予約をとってください。



教員氏名： 倉田 新

ゼミタイトル： 保育・児童福祉学ゼミ

#### このゼミを履修するための条件

このゼミでは将来、子どもたちの最善の利益のために活躍できる保育のエキスパートを育成することを目的とします。よって卒業後、保育所または幼稚園、あるいは児童福祉施設において勤務したい、あるいは大学院に進み更に研究したいという明確な意志が求められます。文献研究やアンケート調査だけでなく、関東の14の保育園を研究施設として利用しながら現場での地道な社会調査・参与観察・フィールドワーク等の実証的研究を積極的に行うことが選択の条件です。主な専門領域は保育学、児童福祉学、子ども環境学、保育経営学、特別支援教育、キャリア支援教育となります。

#### このゼミのねらい・ゼミ生に求められる研究姿勢。

保育や幼児教育、福祉という学問は現場がなくては存在し得ない学問です。リアルな今は現場でしか感じることはできません。このゼミは頻りに現場と関わりながら、子どもたちを取り巻く諸問題を具体的にどのように解決の方向に導いていくのか、問題提起と問題解決が研究の主な目的とします。つまりその研究がどのように社会に役立つのかを深く考えていく姿勢が求められます。よってフィールドで自己に責任を持って適切な態度がとれること、研究のマナーや倫理への理解を確実に深めていくことを求めると同時に、積極的に情報収集を怠らないことが必要です。

#### ゼミの進め方

##### I. 初年度（3年次）

様々な良質な施設を見学して知見を広めます。また基本的な研究方法、論文の読み方・書き方、発表の仕方、レジュメの作り方等を学びます。4年次の論文着手のための事前調査、現場体験を積極的に行い、毎回、担当を決めて各自の目指す研究テーマに基づき全員でディスカッションを行います。問題意識を明確にして問題解決の方法を全員で探りながら、研究計画及び質問紙を仕上げ、次年度の研究・論文着手につなげていきます。ゼミの合宿を行います。

##### II. 卒業年度（4年次）

前年度の成果をふまえて具体的に論文を執筆していきます。そのために必要な本調査を春から夏にかけて行います。9月から10月にかけて研究の中間報告をパワーポイントにて作成し発表します。卒業論文は1200文字×20～50枚程度を課題とします。ゼミの合宿を2回行います。

##### III. 研究成果をまとめる形式（ゼミ論の形式）・各年次のゼミの評価について

基本は個別の論文執筆を最終目標とします。評価は、3年次はディスカッションの参加態度、合宿レポート及び研究準備等を総合的に評価します。4年次はゼミ論作成のプロセス（中間発表、論文発表）及び完成論文を総合的に評価します。

##### IV. ゼミ履修上のルール・学生への要望・注意

出席および積極的な参加が大原則です。また研究に対して自主的、主体的に取り組むことができること。自ら学びたいという強い意志と自己責任が求められます。研究のために責任のある具体的な行動が強く求められます。

##### V. 教科書・参考書

その他個々の研究に応じた必要な文献については、適宜紹介します。紹介されたものは必ず購入すること。また今まで倉田の授業で使用し紹介した教科書及び参考書は、ゼミ開始までに原則持っている事が基本となります。

#### 相談日・相談の方法

オフィスアワーに直接、研究室を訪ねるか、メールまたはラインにて予約をとってください。

教員氏名： 佐野 智子
ゼミタイトル： 子ども心理（臨床）ゼミ ～発達障がい，虐待への支援を考える～
このゼミを履修するための条件 心理学の基礎的知識を有すること。「心理学」，「臨床心理学」の単位を修得していることが望ましい。意欲的に研究に取り組めること。
このゼミのねらい・ゼミ生に求められる研究姿勢 ・このゼミでは，子どもの心理，特に障害を持つ子の理解と支援，虐待が子どもに与える影響と子どもへの支援などについて検討する。本ゼミの目的は，①興味をもって研究する，②自分でテーマを設定する，③先行研究を読み，自分の研究の位置づけを明確にする，④オリジナリティある研究目的を設定し，⑤その目的を達成するための方法を考え，⑥調査実施，⑦量的または質的分析，⑧論文にまとめるといった心理学研究のプロセスを身につけることである。 ・意欲的な研究姿勢を望む。 ・また，ゼミ生同士でのグループ研究も予定している。チームワークや積極的に取り組む姿勢が求められる。
ゼミの進め方 Ⅰ. 初年度（3年次） 基本的な心理学の研究手法，論文の読み方・書き方，発表の仕方，レジュメの作り方等を学ぶ。自分の読んだ論文を紹介し，ディスカッションを行う。また，全員でひとつのテーマについて調べ，レポートにまとめる。2018年度は「絵本の読み聞かせ」について研究している。次年度のテーマも引き続き「絵本」にしたい。
Ⅱ. 卒業年度（4年次） 前年度の成果をふまえ，①各自研究テーマについて発表，②研究の中間報告を行い，③ゼミ・卒業論文を作成する。④夏休みには先行研究をまとめた10枚レポート（400文字×10枚）を課題とする。春学期中に研究計画及び質問紙を仕上げ，夏休み中に観察や調査を実施することが望ましい。秋学期は，得られたデータの分析と，その結果を論文にまとめる作業となる。
Ⅲ. 研究成果をまとめる形式（ゼミ論の形式）・各年次のゼミの評価について 3年次評価：論文紹介（30%），ディスカッションへの参加（30%），共同研究への貢献度（40%） 4年次評価：テーマ発表及び中間報告（20%），ディスカッションへの参加（20%），卒業論文（60%） ※期限内に提出物を提出しない場合，成績評価を行わないことがある。
Ⅳ. ゼミ履修上のルール・学生への要望・注意 ①出席および積極的な参加が大原則である。②責任ある常識的な行動がとれること（例えば，やむを得ず欠席をする場合は，必ず連絡を入れるなど）。 ※自ら考え，積極的に学ぼうとする学生には指導・援助を惜しまないので，頑張ってもらいたい。
Ⅴ. 教科書・参考書 その他必要な教科書・参考書については，適宜紹介する。
相談日・相談の方法 ・事前にメールで予約をとること。

教員氏名：大内 善広

ゼミタイトル：子ども心理（教育）ゼミ～個性を踏まえた教育・支援を考える

#### このゼミを履修するための条件

心理学系の科目の単位を取得しており、教育や保育の方法論や心理学に興味があること。

#### このゼミのねらい・ゼミ生に求められる研究姿勢

心理学的な研究手法を用いて、教育や保育に関連した、一人ひとりの個性・適性に応じたより良い援助・支援の方法を模索し検討することを目的とする。同時に、数的な根拠をもって客観的に仮説を検証する方法論を身につけることも目的とする。特に統計学を用いて主張する技法は、福祉や保育の分野で深いレベルまで身につけている人が少ないと考えられるため、希少性のある方法論を身につけることをねらいとする。統計学では数字（初歩的な数学）を扱うため、算数が得意である必要はないが、数的能力を向上させようとする姿勢を求める。

#### ゼミの進め方

##### I. 初年度（3年次）

各々が各自の問題意識に関連した心理学の論文を探し、その内容をまとめた上で他のゼミ生に報告することを通して、基本的な心理学の論文の読み方や研究方法を学んでいく。並行して、統計に関する講義・演習を行う。また、ゼミ生全員で共通したテーマを設定した上で、共同研究を行う。共同研究では、自らが研究計画を立案し、心理尺度（テスト）の作成、調査・実験、結果の分析・考察を行い、レポートにまとめる。

##### II. 卒業年度（4年次）

3年次の共同研究で学んだ研究手法を活用して、各々の問題意識に基づいた個人研究もしくはグループ研究を行う。調査に際しては、お互いに助け合いながらデータの収集や入力を行い、最終的にゼミ論にまとめていく。参考までに、これまでのゼミ生の研究テーマは「ガムを噛むことと集中力」「学校適応」「LINE依存と既読スルー」「人見知りとコミュニケーション」「子どもの習い事」「障がい者へのイメージの形成要因」「キラキラネームへの印象」「恋愛観」などが挙げられる。

##### III. 研究成果をまとめる形式（ゼミ論の形式）・各年次のゼミの評価について

ゼミ論の形式：調査・実験のデータを統計的に分析した結果に基づいて、仮説を検証した結果を、心理学系の論文執筆規程に基づいた構成で8000字以上にまとめる。

3年次の評価：レジュメの作成、討論・共同研究への参加、共同研究報告書の内容

4年次の評価：研究への取り組み・進め方、ゼミ論

##### IV. ゼミ履修上のルール・学生への要望・注意

共同研究を行うので、無断欠席は厳禁です。また、課題が多く出ることになりますが、必ず期限までに課題を完了させて下さい。

##### V. 教科書・参考書

本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本（北大路書房）

絶対役立つ教育心理学－実践の理論、理論を実践－（ミネルヴァ書房）

#### 相談日・相談の方法

研究室の前に掲示されている私の授業時間割を確認し、授業がない時間内で相談日・時間を設定し、前日までにメールにてアポイントを取って下さい。メールアドレスは授業時間割に記載してあります。

<p>教員氏名： 竹内 秀一</p>
<p>ゼミタイトル： 現代社会ゼミ – 「いま・ここ」を読み解き、自分たちの座標を知る –</p>
<p><b>このゼミを履修するための条件</b></p> <p>自分たちの生きる「いま・ここ」を分析してみたい者は、所属コースを問わず歓迎する。または、卒業後の進路として直接的に人と関わる職を考えている者のうち、活動（遊び）をデザインするための実践力を身につけたい者もあわせて歓迎する。いずれにしても、本人の熱量を重視する。</p>
<p><b>このゼミのねらい・ゼミ生に求められる研究姿勢</b></p> <p>本ゼミは、社会現象や流行り、集団・個人の営みについて様々な立場から読み解く“ものの見方”を養うことを目的とする。これを「複眼性」という。そのためにも、所属コースは問わない。</p> <p>「いま・ここ」の社会で、当たり前とされていることは（あくまで）人々が作り出した価値観である。それらを取って疑い、いま一度考えてみようとする姿勢が強く望まれる。こういった作業は、自分自身が生きていく上で大切にしたい、あるいは深く考えたいテーマとの出会いでもある。二年間のなかで、そんな時間を一緒に創っていかねばと考えている。</p> <p>参考までに、担当教員や現在のゼミ生が考えているテーマを一部紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「なぜ、人はInstagramで情報収集をするのか？」</li> <li>・ 「電車における優先席のせめぎ合いについて – 譲りにくさの正体とは –」</li> <li>・ 「難聴者への認識における個人差は、何によるものか？」</li> <li>・ 「ソーシャルゲームによって経験する“繋がり”とは何か？」</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p>
<p><b>ゼミの進め方</b></p> <p><b>I. 初年度（3年次）：テーマ探し</b></p> <p>一年間をかけて、研究の“問い”=いま一度深く考えてみたいテーマを、各自見つけることを目指す。ただし、興味関心の近い者同士でテーマを共同に設定する場合もある。ゼミでは、そのヒントとなるような活動を随時行う。以下、その具体例である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ファッション誌や健康雑誌の表紙を集めて、その時代・地域の理想的な身体について考える</li> <li>・ 「楽しい」を仕掛けるスキルについて、遊園地のスタッフを対象にフィールドワークを実施</li> <li>・ 漫画『ヘルプマン！』から福祉人材の現代性について考える</li> <li>・ 新しい運動遊びを開発する</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p>
<p><b>II. 卒業年度（4年次）：調査&amp;考察</b></p> <p>次の手順で論文の執筆を進めていく。①初年度で設定したテーマに応じて、適切な研究方法を検討する。②調査を実施してデータを収集する。③データを整理し、考察を深める。なお進度に応じて、ゼミ生同士（ときに異学年を交えながら）積極的に意見・情報の交換をすること。</p>
<p><b>III. 研究成果をまとめる形式（ゼミ論の形式）・各年次のゼミの評価について</b></p> <p>研究成果の形式：先行研究を10本以上参照した上で、8,000字以上の論文を作成。</p> <p>評価（3年次）：ゼミ活動への参加状況・態度を総合的に評価。</p> <p>（4年次）：ゼミ活動への参加状況・態度に論文の評価を加味する。</p>
<p><b>IV. ゼミ履修上のルール・学生への要望・注意</b></p> <p>無断での欠席・遅刻や役割分担の放棄など、無責任な言動をとる学生の履修および単位取得は一切認めない。また、他者と協同で活動することが多くなるため、お互いの考えや遊び心について共感的に理解する姿勢が求められる。</p>
<p><b>V. 教科書・参考書：</b> 適宜紹介するが、それぞれの興味関心に応じて情報収集に励むこと。</p>
<p><b>相談日・相談の方法：</b> 事前にメールなどで相談日の予約をとり、研究室まで来訪してください。</p>